



平成21年7月30日

北海道庁保健福祉部
障害者保健福祉課課長様

北海道失語症友の会「北の会」
会長 谷川弘治

拝啓

時下ますますご清祥のことと存知お喜び申し上げます。

さて、このたびお手紙を差し上げましたのは、来る総選挙に於いて「投票」することに関してなのです。

従来、選挙があるたびに、「文鎮」があるかどうか、「スロープに手摺り」があるかどうかで悩んでいます。

私たち脳卒中で倒れた者は、どこか僅かながらも不自由な思いでいます。まして、私たちのように片麻痺の者は、喋ることも、歩くことも、ままならないのです。

しかし、そうは言っても、選挙には行って、投票をしなければならないと思っています。歩くことが不自由でも、喋ることが不自由でも、国民の義務だから、それは続けようと思っています。

それで提案なのですが、全道の投票場に隈無く「文鎮」を置くこと、「スロープには手摺り」を設けることなのです。

これに関して、8月10日までにご返事を頂きたいお願い申し上げます。

宛先は知事にするか、選管にするべきかいろいろ迷いましたが、障害者保健福祉課なら、我々のことを良くご存じだと思いましたが、失礼がございましたらお許しください。

敬具